



特別展 没後130年河鍋暁斎展関連 おやこ解説会

- 開催日時：2019年4月13日（土）
10:30~12:00
- 参加者：こども11名、大人13名
- 対象：小学生~高校生
- 参加費：無料
- 場所：レクチャールーム、特別展示室

- 概要
幕末から明治初期にかけて活躍した画家、河鍋暁斎。彼の幅広い画業を、作品を通して担当学芸員が分かりやすく紹介。展示室で多彩な作品を鑑賞し、鬼才と呼ばれた暁斎の魅力に迫りました。



- 1
まずは、暁斎展を担当した村田学芸員より、暁斎と作品の特徴についてのレクチャーがありました。
暁斎の作品の特徴は、対象を表現する適確な線と色づかい、人物や動物の動きにあると、村田学芸員。「猫がおる」「鳴き声聞こえてきそう」「ふギャー！」と、みんなもしっかりとりアクションしてくれました。

- 参加者のみんなの感想
 - ・興味深い作品ばかりでした。
 - ・いろんな面白い作品を見れて楽しかったです。
 - ・暁斎の作品を描いてみたけど、難しかったです。

- 保護者の方よりの感想
 - ・解説が分かりやすく簡潔でよかったです。
 - ・大人も好きな絵を見つける課題ほしかったです。
 - ・本物にふれる機会があり興味深かったです。

- 2
いよいよ展示室で本物の暁斎の作品を鑑賞します。まずは、入り口にある《新富座妖怪引幕》の実寸大複製(4m×横17メートル)。

村田学芸員「暁斎は、この作品を4時間くらいで描きあげたんですよ。」
参加者一同「えっ！4時間っ!？」



- 3
展示室内。村田学芸員の解説を聞く参加者。和やかなムードの中、様々な質問や意見が飛び交います。
本展のチラシにも掲載されている《美女の袖を引く骸骨たち》の前でも、「後ろの行列の人たちも骸骨になってる！」など、それぞれが発見したことを共有しました。

- 4
「お気に入りの作品を選び、気に入ったポイントを自由に説明してください」という課題を出した結果、ほとんど全員が作品を模写。模写は細部の観察を要するので疲れてしまうことが多いのですが、作品に対峙している時の集中力と真剣さは企画段階で我々が予想していた以上！時間ぎりぎりまでワークシートにまとめてくれました。



- 5
最後に、みんなでワークシートを発表しました。いやあ、どれも力作！（写真撮れていませんでした。ごめんなさい…。）「細かいところまでよく観察してるなあ。」「そこに注目したか！面白い！」という言葉が大人たちから漏れます。ワークシートからは、参加者のみんなが楽しみながらも、能動的に鑑賞してくれていたことが伝わってきました。

- ふり返って
こちらからお話した内容だけでなく、暁斎作品のたくさんの特徴に気づいてくれて、とってもよかったです。作品のまねをして描いてみると、新たな発見があるかもね！

(村田学芸員)